

河川の流れを安定させ、地下水を涵養する働き ～田畑に貯留した雨水等は、豊かな水源を涵養する～

田に貯留した雨水等は、一部は排水路から河川に戻り、一部はゆっくりと地下へ浸透し湧出して河川に戻ります。これらは、河川の流量を安定させる役割を果たしています。

また、地下に浸透した水は地下水にもなります。

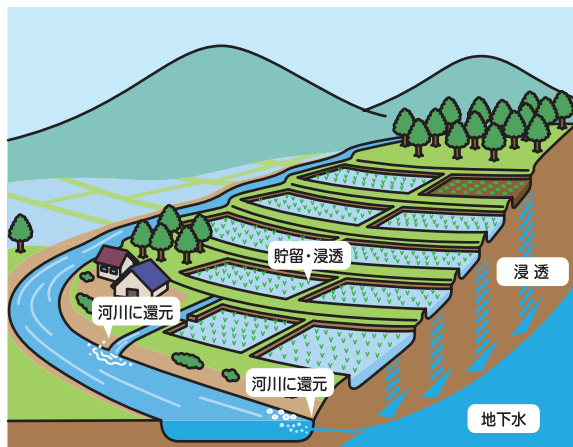
耕作された畑にも同じような役割があります。



熊本県 白川中流域

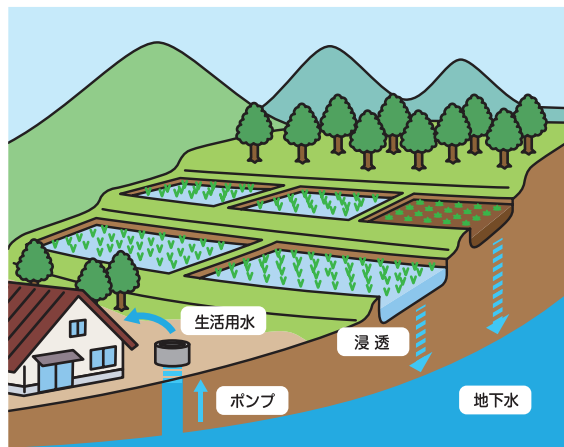
▼河川の流れを安定させる

田畑に貯留した雨水等は、水路を通じて、また地下水としてゆっくりと河川に還元されることにより、河川の流れを安定させる。



▼地下水を涵養する

田畑に貯留した雨水等の多くは、地下にゆっくりと浸透して地下水となり、良質な水として下流地域の生活用水等に活用される。



福島県美里

COLUMN

地下水涵養の取り組み

熊本県熊本市は、水道水の全てを地下水で賄っており、市内を流れる白川の中流域に広がる水田が地下水源になっています。平成 16 年 1 月に熊本市と大津町、菊陽町、地元土地改良区等との間で協定を結び、転作した田に水を張る取り組みを開始しました。平成 25 年 3 月には、このような地下水保全の取り組みが評価され、熊本市は国連“生命の水”最優秀賞を受賞しています。



熊本県のわき水

生物のすみかになる働き

～田畑は多様で豊かな生きものの命を育む～

田畑は、自然との調和を図りながら継続的に手入れをする事により、豊かな生態系を持った二次的な自然が形成され、多様な生物が生息しています。この環境を維持することで、多様な生物の保全にも大きな役割を果たしています。



ヘイケボタル



オタマジャクシ



タガメ



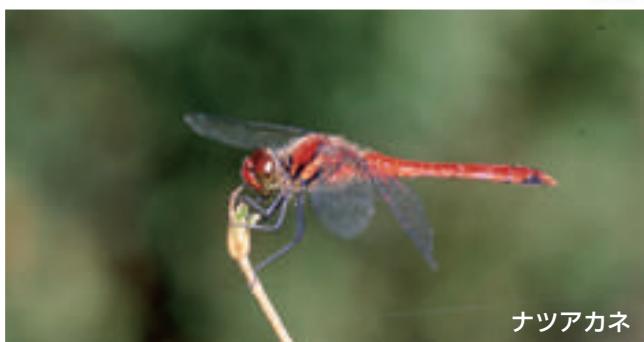
マルタニシ / モノアラガイ



トキ



シオカラトンボ



ナツアカネ



アカハライモリ



クモ



コウノトリ

▼田畑に集まる生物

水が張られた田には堆肥などの有機物を分解する微生物が繁殖します。その微生物を小魚が食べ、その小魚を水鳥が食べます。また、クモや昆虫をカエルが食べ、そのカエルをヘビが食べ、ヘビは猛禽類等に食べられます。このような「食物連鎖」により、多くの生物が集まり、つながりあって生きています。



COLUMN

生きものを育む「ふゆみずたんぼ」

「ふゆみずたんぼ」とは、秋の収穫後から翌春までの冬の一定期間に田んぼに水を張り、生き物を豊かにしようとする取組です。

水が張られた田んぼでは、微生物やイトミミズ、ドジョウなどの小魚が育ち、それらをエサとする鳥類が飛来するようになるなど、水田地帯の多様な生き物を育みます。

